

地域人材の使い方を通じた探究的な学習について ～中学年での実践を通して～



第三部会 総合的な学習の時間研究部
白井市立大山口小学校 藤後谷 知恵
後藤 麻由

学校紹介

白井市立大山口小学校

- 創立43年目(白井市立第三小学校より分離開校)
- 白井市西部 千葉ニュータウンの西端
- 全校児童 554名(令和3年7月現在)



自ら学び、豊かな心をもち、たくましく生きる子どもを育てる

進んで学ぶ子 (かしこく) 思いやりのある子 (やさしく)

最後までやり通す子 (たくましく)

主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、**教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと**などを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくことに努める。

学習指導要領の改訂の趣旨、及び要点より

(2) 学校や地域の実態から

「自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる」

⇒生活の中で発見した課題や疑問に対して探究心を持ち、積極的な人との関わりを経て、自分の考えを確立させる

「地域から信頼される学校づくり」

⇒教育活動を地域に認知してもらい、地域とともに児童を育てる

(3) 児童の実態から

「集団の中で、目標に向かって努力したり、全員で解決しようとしたりすること」

⇒肯定的な回答が過半数を超えている(64%)

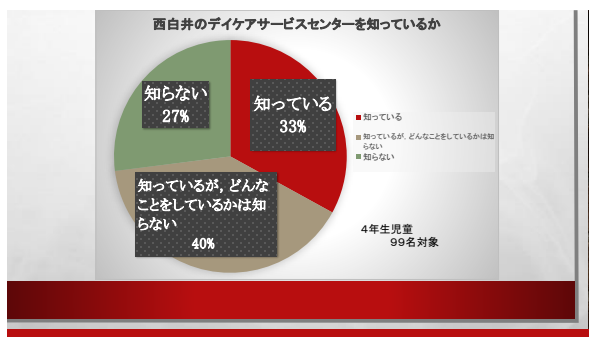
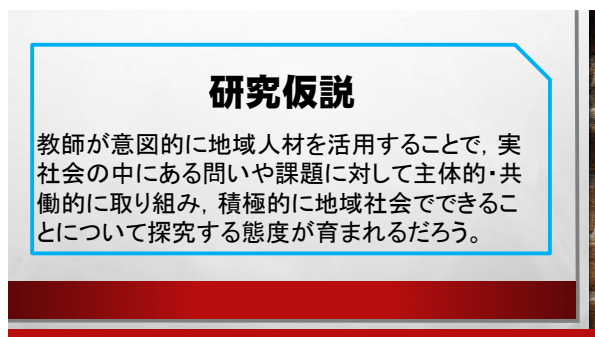
「実際に目標を達成できた、問題が解決できた」

⇒肯定的な回答が半数を下回る(高学年は30%以下)

児童同士、校内での活動だけでは不十分

↓
地域人材との関わりで探究活動を充実化させる

地域人材について



福祉の学習



「高齢者が困っていることは何だろう」

「デイケアサービスセンターで自分たちにできることはあるだろうか」

身近な地域人材の活用

手立て①

年間での一貫したテーマを設定し、徐々に身近な課題にせまっていって、探究的な見方・考え方ができるようにする

一貫したテーマ



福祉について

手立て②

地域人材の活用と、その後の話し合い活動の充実を通して、集団の中で課題を解決していくことの楽しさを味わわせる

共働的な作業



個人では見えなかった課題の解決
次の課題へ

実践例

(1) 単元設定の理由



千葉県の高齢化率 25.5%
 白井市の高齢化率 27.2%
 大山口小学校区の65歳以上人口 2047名
※令和3年度

高齢者とともに生きる

参考: 白井市公式Webサイト (city.shiroi.chiba.jp)

第3学年

「地域の環境」⇒環境が、人を幸せにする



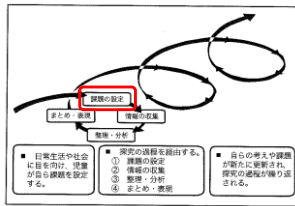
第4学年

人の幸せ⇒「福祉(ふだんのくらしを~~し~~あわせに)」

高齢者との関わりへ

課題設定

探究的な学習における児童の学習の姿



○デイケアサービスセンターの所長さんの話



○高齢者体験学習



○認知症についての講話と体験学習



講話や体験学習

ウェビングマップ・ピラミッドチャート
(思考ツールの活用)

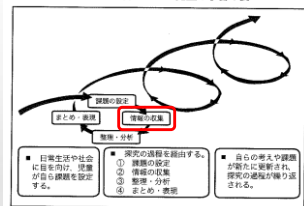


課題設定に至る思考

参考:シンキングツール~考えることを使いたい~
著:黒上晴夫, 小島聖博, 藤山隆(2012)

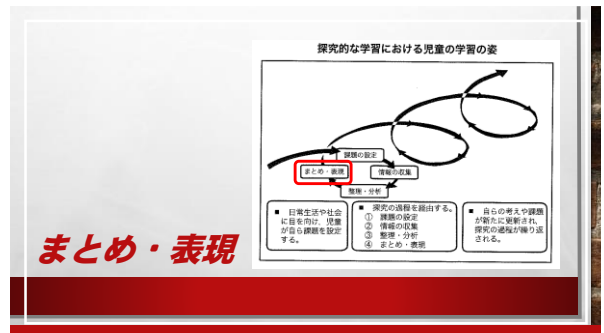
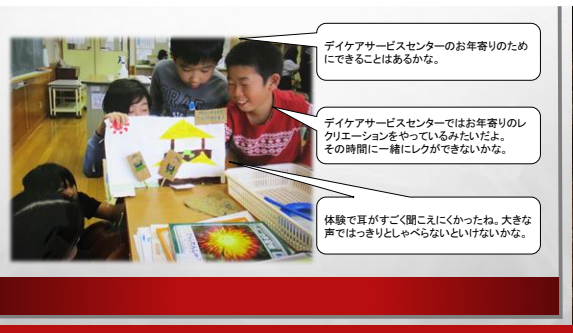
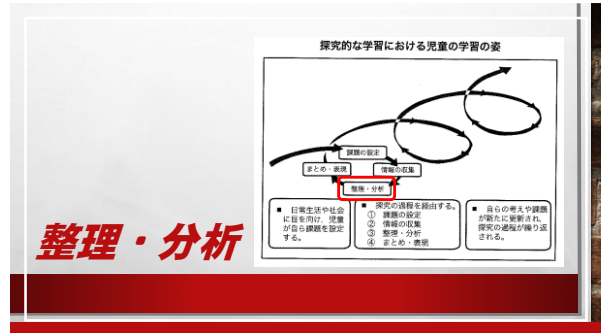
課題設定 ⇒ デイケアサービスセンターでの実践へ

探究的な学習における児童の学習の姿



情報収集

- ・インターネット
- ・図書館
 - ※国語科・引用の仕方と関連させ、出典の明記等をおこなう
 - (白井市図書館 テーマに沿った本を貸出)
- ・周囲の高齢者へのインタビュー
- ・デイケアサービスセンターへの質問



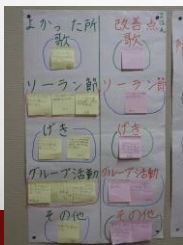
ソーラン節の披露



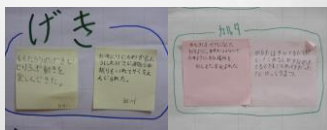
高齢者との交流



○成果と課題の整理



KJ法



○プレゼンテーションソフトを使ったまとめ

- ・令和元年度⇒キューブきっず(鈴木教育ソフト)
- ・令和2年度以降⇒SKYMENU シンプルプレゼン (Sky株式会社)



他学年へ向けた発表
(発表相手を意識する)

児童の変容

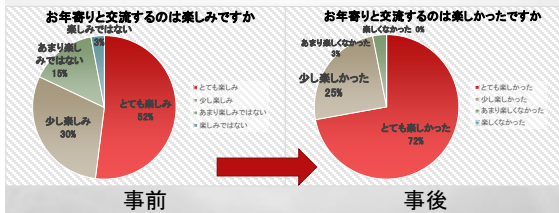
○地域の高齢者との関わりに前向きに



お年よりの方々ととても楽しく笑いながら楽し
 たい思い出として残した。
 そのやさしさをみんなにまもることができるようにがんばる

高齢者の方との関わりを経て、意識の変容が見られました。

○事前・事後のアンケート結果



○新たな課題を見出す

耳が聞こえないお年寄りとお話をし
 話したいです。

音楽集会で、手話を使
 いながら歌う計画を立
 て、実践しました。



成果と課題

○成果○

地域人材の活用

⇒ 積極的な社会参画への意欲の高まり

周囲の意見と比較検討しながら、自身の活動体験をまとめる

⇒ 課題解決能力の向上

◆課題◆

まとめ・表現 誰に向けて発表するか

⇒ 相手を意識して、まとめ方を変える

ICT機器、地域人材の活用

⇒ 社会情勢に見合った学習の見直し

■まとめ■

- ・地域の施設や地域の人のことをあまり知らない
- ・身近な高齢者が少ない
- ・他者を思いやることの気持ちよさに気付かせたい



- 自分も地域の一員であることを意識することで、積極的な社会参画をする素地が育った
- 他者に優しくすることの気持ちよさを感じることができ、共働的に取り組む態度が育まれた
- 地域について知り、適切な地域人材を活用することで、主体的な取り組みが生まれた

探究的な学習における児童の学習の姿

新たな課題へ

- 日常生活や社会に目を向け、児童が自ら課題を設定する。
- 新たな課題を提出する。
 - ① 課題の設定
 - ② 課題の取組
 - ③ 課題の分析
 - ④ まとめ・発表
- 自らの考えや課題が新たに提案され、探究の過程が繰り返される。

☆SDGsなふるさと白井を
(第6学年での取り組み)

第4学年: 地域で自分たちにできることは何だろうか

↓
新たな探究課題の設定

第6学年: 白井市のために、自分たちにできることは何だろうか

国語科
パネルディスカッションの学習で
課題を見出して……

プレゼンテーションソフトを使って
発表へ

ご清聴ありがとうございました。